

東大阪市の水道水に含まれる PFAS（有機フッ素化合物）の検出状況について

水道水に含まれる PFAS の水質検査結果については、PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）及び PFOA（ペルフルオロオクタン酸）のそれぞれの濃度の合算値を採用しています。

東大阪市の水道水の PFOS 及び PFOA の合算濃度値は、国が示す水質基準値（50ng/L）を大きく下回っており、引き続き安心して水道水をご利用いただけます。今後もみなさんが安心できる水道水をお届けできるように水質管理に努めてまいります。

東大阪市の水道水における PFOS 及び PFOA の検出状況（令和7年度まで）は表1をご覧ください。

PFAS とは

PFAS（per- and polyfluoroalkyl substances の略）はペルフルオロアルキル化合物とポリフルオロアルキル化合物の総称であり、主に炭素とフッ素から成る有機化合物です。

PFAS には数多くの種類が存在しますが、中でも PFOS と PFOA が代表的であり、水や油をはじく性質があるため、フライパンの表面加工や撥水剤、消火剤など幅広い分野で用いられていました。これらの物質は熱、薬品、自然環境の中でも分解されにくく、体内に蓄積されやすいため、現在、国内外で使用や製造は禁止されています。

水質基準値の 50 ng/L とは

体重 50 キログラムの人が体に取り入れるべき量とされる 1 日 2 リットルの水を一生毎日飲み続けても健康に影響がないと考えられている濃度値です。また、「1 ng/L」は「水 1 リットルの中に 1 ナノグラム（10 億分の 1 グラム）の物質が含まれる（※1）」ことを意味します。

（※1）京セラドーム大阪(120 万 m^3)をすべて水で満たした時、その水の中に 1.2 g の物質が含まれることに相当します。

水道水の水源地

東大阪市の水道水は、大阪府を流れる淀川と市東部から奈良県にまたがる生駒山の湧水を水源に作られています。

市内へ届けられる水道水の 98%以上は、淀川を水源としており、大阪広域水道企業団又は大阪市水道局にて浄水処理されたものです。市全体の 1%ほどですが、生駒山の湧水を水源とした水道水も市内に配水されています。